

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374200257		
法人名	社会福祉法人 仁至会		
事業所名	グループホーム・ルミナス大府		
所在地	愛知県大府市半月町3丁目289		
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jig_yosvoCd=2374200257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和3年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは木造で温かい雰囲気できている。ホームの中心には天窓、天窓の下には大きな丸い食卓がありみんなで美味しい食事とっています。室内にはいつも季節ごとの飾りつけをし、その時の季節を感じて頂けるようにしています。季節ごとの行事、家族同伴日帰りバス旅行は毎年実施しています。(コロナの為20年続けてきた家族同伴日帰りバスツアー中止しました。他の外出に関しても全て中止しています。) ホームのには20歳になるワンちゃんモー太くん(牛柄の白黒なので)がいます。今は寝たきりになってしまいましたが…頑張っています。その姿を見てみんなも頑張っています。グループホームのマスコットです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームルミナス大府は、広々とした小高い台地に、あいち健康の森公園や国立長寿医療センター、元気の里、介護施設等が建ち並ぶ一画に位置し、隣接して同法人の介護老人保健施設がある。田園風景が広がり、恵まれた自然環境の中に建つホームは、木造平屋建てで穏やかで暖かい雰囲気を持ち、設立20年目を迎える。管理者は一度も変わることなく職員の定着率もよい。世界的なコロナ禍の中、開設以来毎年楽しみにしてきた家族同伴のバス旅行やいちご狩り、花見会、法人の夏祭りなど全て中止となり、外出規制や面会規制のある中でも、入居者と共に楽しく過ごせる工夫を職員一丸となって考え、実施している。ホーム内での運動会や体を動かすゲーム等と共に食事の支援には力を入れ、夏のうなぎや焼肉、また、おやつ作りで皆の笑顔があふれている。毎月のホーム便りも写真と個々のコメント付きで家族に安心を届けている。ホーム内には皆で作った季節の作品が飾られ、華やいだ雰囲気を醸し出している。グループホームのマスコット「もーた君」も寝たきりになりながらも皆の温かい見守りと介護を受けながら、家族の一員として居間の片隅で頑張っている姿は、みんなに癒しと勇気を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とし6つの項目を掲げ、スタッフルームの出入り口や他目につく所に確認できるように掲示してある。	運営方針や介護理念は、皆がいつでも目にとまるように玄関や事務室、職員のトイレに掲示している。事務室の出入口には「理念は確認しましたか？今の貴方は“笑顔”かな？一日楽しく過ごしましょう。」が掲示され、業務に入る前の心構えや終了した時の振り返りが出来るように工夫している。スタッフ会議でも共有し確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との関わりに努めていたが、今年度は コロナの為すべて中止	町内会へは、法人として加入している。配布されてくる地域の便りや運営推進会議で情報を得て地域行事に積極的に参加しているが、今年度はコロナ禍で地域との関わりが希薄になっている。コロナの終息を待ち、毎日の買い物やボランティアとの交流、いちご狩り、梅見等再開されるのを入居者と共に心待ちにしている。事業所周辺への散歩はその日の状況に応じて出かけ、合う人と挨拶を交わしながら交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習の受入を行っているが、今年度はコロナの為すべて中止		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は1度ご利用者抜きで委員会を開催したが、その他はお手紙での現状報告し、お電話でご意見をうかがう。	運営推進は年6回、その内2回は家族全員が参加する家族会を兼ねて開催していたが、今年度はコロナ禍の為、外部からの参加は2回のみとなった。そのうち1回は入居者抜きで、感染予防対策として広い法人の会議室を利用している。他の4回は書面開催となっているが、報告事項や入居者の様子なども分かり易い写真付きで報告し、意見や要望は電話等で聞いて職員間で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会に加入はしているが今年度はコロナの為すべて参加できず	介護保険更新時には、入居者同伴で担当窓口を訪れていたが、今年度はコロナ禍の為同伴は控えている。訪問時に担当者には入居者の暮らしぶりや事業所の現状を伝え、コロナ情報等の情報を交換をしたり、アドバイスを受けたりしながら協力関係を継続している。行政からの研修会も中止になっているが、リモートでの研修が検討されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間以外はせず、3ヶ月に1回拘束委員会を開き、スタッフ会議で勉強会をしたり、振り返りをしている。。	3ヶ月に1回「身体拘束適正化委員会」開催すると共に月1回のスタッフ会議の中でもキーワードを変えながら、拘束の指針に基づき話し合う場を設けている。職員全員で話し合うことにより、拘束に対する知識や意識を高め日々研鑽している。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の声掛けや対応を見ながら本人と話をしたり、スタッフ会議ではみんなと意見交換をしている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前家族会、運営推進委員会で講師を招き勉強会をし、実践で活用できるように努力している		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に文章を一読して頂き、その後口頭にて説明し、十分納得して頂いている。解約、改定時も同様、納得して頂き、同意書にサインして頂いている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉は必ずカルテに残し、うやむやにならない様にしている。面会時、家族懇談会時には話しやすい雰囲気を作り、出された意見はスタッフ会議等で話し合いを行っている。	日々の入居者の言葉や反応は必ずカルテに記録している。コロナ禍で面会が規制され行事が中止になり、家族とは頻りに会えない分、入居者の様子をおたよりや写真で知らせ、家族からの要望や意見は電話やメールで聞くようにしている。家族から出された意見は、スタッフ会議の中で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ある同法人老人保健介護施設の会議へ参加し、ホームの状況やみんなの意見を伝えている。会議時以外にも上司への報告や相談をしっかりと行っている	管理者は日頃から職員間とのコミュニケーションを大切に、働きやすい職場環境作りに留意している。職員間で出た意見や要望は、管理者が参加する、月1回の同法人老人保健介護施設の会議の中でホームの状況と共に伝え共有している。また、相談や意見や要望などがあると必要な事柄はすぐに上部に報告をし運営やサービス向上に活かせる環境が構築されている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見はしっかり聞き、取り入れ、個々でのアイデアが生かせる様に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会、研究発表等へも参加している。ホーム内勉強会ではスタッフの希望を取り入れて行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣施設と連絡をとりあっている		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームへ見学へ来て頂き、面談を行う(こちらから、伺う事もある)。 コロナの為電話での対応となっている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、家族の苦勞や、今までのサービスの利用状況等をゆっくり聞き、不安や求めている事を理解し、信頼関係を作っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、必要なサービスに繋げる様にしている。また、関連施設との連携をとり対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と一緒に楽しみ、共同生活を営むようお互いに助け合い生活している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族懇談会では職員の思いを伝えるようにし、家族の思いを受止め、協力しあえる関係を作っている。(現在コロナの為家族懇談会は中止している)		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為気軽に来て頂く事はできないが、年賀状や暑中見舞い等を書いたり関係が途切れない様に支援している。	コロナ禍の前は家族と一緒に友人や近所の方々が気軽に立ち寄っていたが、現在は馴染みの人と会うことや馴染みの場に行くことができない状況となっている。そんな中、年賀状や暑中見舞い等を書き、関係が途切れないように支援している。	家族の人に、元気なころの写真を持って来てもらい懐古したり、今まで行っていた絵手紙を馴染みの人に出したりすることで、より関係が途切れないようにすることを期待したい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が気軽に話せるよう話題を提供したり、レクリエーション等を通じてご利用者同士の関わりが持てるよう努めている。また利用者の関係性について情報を全職員が共有している。		

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方の話を傾聴したり、季節のハガキを出したりし継続的な付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの声掛け、把握に努めている。言葉や表情等から利用者の思いをくみ取り、希望に添えるようにしている	日々の関わりの中で、入居者ひとり一人に丁寧に言葉をかけ、会話や表情からも思いや意向を汲取るようにしている。入居者が洗濯物をたたんだり食器拭きをする生活の場面でも、じっくり時間をかけ寄り添うことで、個々の思いや日々の体調の変化の把握に努めるようにしている。困難な時は本人本位に検討したり、家族の協力も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、病院、施設から情報提供を頂いている。生活歴を記入し頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の個性、身体能力等日々の生活を通じ把握できるように努め、その人らしく暮らして頂ける様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いを聞き、スタッフからの意見も参考にし、反映した計画を作成している。	入居者からは日ごろの関わりの中で、家族からは面会時や電話で思いや要望などの聞き取りをしている。毎月のスタッフ会議で情報交換をし、3か月毎のモニタリングを経て、医療関係者や職員の意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。入居者の状況に応じ随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを記入し、勤務の始まりには申し送りを行っている。月1回のスタッフ会議でも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて、通院等の支援。家族の要望に応じて家族の行事(冠婚葬祭)への付き添いに対応していたが、今年度はコロナの為外出の要望はお断りしている。		

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会をきっかけに民生委員の方との交流ができ、地域の情報を早くに把握し、暮らしを楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、近くの開業医の医師が2週間に1度訪問診療に来て下さっている事を説明し、納得した上で主治医となってもらっている。状態に合わせた受診、往診、電話等での情報交換、定期検査を行っている。	入居時に、協力医による2週間に1回の往診体制や緊急時の対応等の説明をし納得した上で協力医を主治医する入居者が多くなっている。入居者の状態に応じ、電話での情報交換と対応、往診等で24時間安心できる医療体制が構築されている。眼科や耳鼻科等の専門医受診は家族対応となっているが、受診情報の伝達はしっかり行い、申し送りで周知しケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。早期発見、早期対応に努めている。看護師といつでも連絡がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して過せるよう医療機関へ情報提供している。入院によるダメージを極力防ぐ為、家族と一緒に医師と話をする機会を持ち、ホーム内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し、ホームで出来ることを明確にし、理解して頂き、本人、家族、主治医とご利用者の状態に合わせ、幾度も話し合いを重ね、その時の最善を尽くす様に努めている。	重度化した場合の対応に関する指針が作成されており、入居時に入居者と家族へ説明をしている。状態に変化があった場合は、早い段階から状態に合わせて、家族や主治医、関係者間で幾度も話し合いを重ね、方針を共有しながら介護計画を立て、その時の最善を尽くす支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導の下、救急手当や蘇生術の勉強会を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年3回(1回は老健合同)のホーム全体での避難訓練を行っている。消防署の協力で避難訓練、消火器の使い方等の訓練を年1回行っている。(今年度の老健との合同は電話での連絡のみ)	マニュアルを作成し、年3回(1回は老健合同)ホーム全体の避難訓練を行っている。今年度は、コロナの影響で合同の訓練は電話のみの訓練となっている。ホームだけの訓練を行ない、消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方をシュミレーションした。訓練後意見やアドバイスを聞き、いざという場に活かせるようにしている。ホームの面積では必要ではないが、スプリンクラーが設置され安全面の配慮がされている。備蓄は水や食料など職員を含め三日分準備している。	

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議で自分の言葉がけについて振り返り、話し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけができるよう努めている。日頃はスタッフ同士で注意し合えるようにと努めている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳やプライバシーを損ねない言葉がけに努めている。日頃は職員同士で言葉がけを確認できるようにし、職員自身が、自分の言葉がけを振り返り、誰が聞いても不快に思わない言葉がけに努めている。	尊厳やプライバシーを損ねない言葉がけに職員は日々努めているが、不快に感じた言葉はどのような言葉であったかを記録し、職員会等で振り返りを行うことで共通理解ができる。そのことが職員の質の向上につながっていく事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と過す時間を通して、利用者の要望、関心、嗜好を見極め、少しでも本人で自己決定できる様な場面を作るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本1日の流れは大まかにあるが、細かいスケジュールは無く、決まった過し方ではない。その日その日をご利用者のペースで合わせて過ごすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことが難しくなっているが、季節感等を考え声掛けをしている。定期的な訪問美容を活用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の会話で利用者が何を食べたいか聞いておき、カロリーも気にしながらメニューに取り入れたりしている。重度化が進みできる事が減っているが、食器拭き等して頂いている。食事は同じテーブルを囲んで楽しめる様になっている。	日々の会話の中で、入居者の希望を確かめ、カロリーや栄養バランスも考慮してメニューを作っている。入居者と一緒に食材を買いに行っていたが、現在はコロナ禍の為、職員が行っている。介護度が進み出来る事が少なくなっているが、保有能力に応じて調理や片付けを行っている。食事は、職員も一緒にテーブルを囲み、見守りと共に楽しい雰囲気作りを支援している。コロナ禍で外食が出来ないのでファミレスからテイクアウトをしたり、雑祭りのおこしものやクレープ・ケーキ作りなど食の楽しみに力を入れた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の摂取量を把握している。なるべくその方に合った量を準備し、固さや形状も考えている。必要な場合は水分チェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、本人に合った対応(見守り・介助)をしている。就寝時には全員イソジンでのうがいをし、義歯の洗浄を行っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った時間を考えトイレ誘導し、トイレで排泄出来るよう支援している。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパット類も本人に合わせ使用している。	トイレでの排泄を基本に、個々に合わせた時間での誘導や言葉がけをして自立支援に向けたケアに努めている。紙パンツやパット類も入居者に合わせたものを使用している。便秘予防にも留意し、便秘に良い食材やお腹のマッサージ等も取り入れ、なるべく薬に頼らない自然排便を目指している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を心掛けて使用したり、乳製品を取り入れたり、水分・運動に気を付けている。その方に合った下剤の内服、時間、量を調節している。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	冬は(乾燥がひどい為)入浴を1日おきとしている。入浴の長さ、お湯の温度等本人の希望や持病に合わせて入浴して頂いている。羞恥心等への配慮をしている。	一人ひとりの希望や体調に合わせ、入浴の長さや温度などを調整している。湯の清潔を保つためシャワーを出しっぱなしにして浴槽の循環をしている。楽しみの一つとして、季節を感じるしょうぶ湯やゆず湯等も取り入れている。入浴剤は、体が乾燥しにくいものを使用している。羞恥心やプライバシーに配慮したり、冬季はヒートショックに留意している。入浴拒否の人には声かけや環境、時間等その時々状況に応じた工夫をしながら支援している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活リズムを整える様に努めている。(昼寝を促したり、傾眠しすぎないように声掛け覚醒を促している) 寝付けない時には温かい飲み物を出したり、話を聞いたりし安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作り、職員が把握できるようにしている。薬に変化があった場合は個々のカルテに記入している。また申し送りノートにも記入し伝達している。服薬時にはその人に合った対応(手渡し・口の中へ)をし、必ず飲んだ事を確認し、チェックしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や嗜好品を把握しレクリエーションを行ったり、地域行事への参加ができるよう支援している。強制でなく、利用者が出来ることをして頂いている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日午後からの買い物には利用者も一緒に行っている。季節ごとの行事(花見、莓狩り)家族同伴日帰りバスツアーは毎年の恒例行事となっている。個別での外出や家族からの希望での外出にも対応できるようにしている。コロナの為すべて中止	恒例行事の家族同伴バスツアーや花見、海辺の夕食等は、コロナ禍の為全て中止となったが、近くへの散歩には出かけ、できるだけ自然と触れ合えるようにしている。かかりつけ医受診などを利用して家族と夕食をする方もある。環境を整えたいちご狩りなど検討している。	

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に預かっているが(何人かは自分でも持っている方もいる)、外出時には本人へ財布を渡し支払ってもらうが、無理強いはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば聞き入れ対応している。携帯電話を利用している方もいる。年賀状、暑中見舞いは毎年出すよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔に心掛けている。(消毒や換気には特に注意している)部屋やリビングの温度を利用者に快適か確認し配慮している。季節感を取り入れた飾り付けをしたりし落ち着いて過ごしていけるようにしている。玄関先には季節ごとの飾りを自分たちで作り、飾るようにしている。	コロナ感染予防対策として換気に努め各所に消毒液が置かれ常に清潔に心がけている。入居者がくつろぐ居間には天窓があり、天窓を開けることで風が入り換気になっている。テレビでは懐かしいお笑い番組が流れ、ゆったりとしたソファで観ている入居者に笑顔が見られる。玄関や廊下には季節を感じる手作りの飾りが飾られ、感染予防対策の面会用として取り付けられた透明なアコーディオンカーテンが温度管理に役立っている。湿度や音、光等にも配慮し入居者が居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンの円卓やリビングで、自由に過せるようになっている。死角になる位置にもベンチ型の場所を確保している。玄関にもイスがあり、利用者が座り、自分たちの作品を見たり、おしゃべりしたり出来る様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具等全て個人の物を持ち込んで頂いている。電話が引ける様になっていたりと、携帯を持って来ている方もいる。現在はいませんが以前は仏壇を持って来た方もいた、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	居室は洋室と和室があり、家具や寝具等すべてが、馴染みのある自分の物を持ち込んでいる。馴染みの小物や写真、自作の作品が飾られ、安心して居心地よく過ごせる空間作りをしている。電話が引けるようになっていたり携帯を持っている方もいる。部屋の清潔や換気にも留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に個人の名前、トイレやお風呂などにはわかりやすいよう表札をつけている。		